



図書館だより 10月

四日市メリノール学院図書館

10月は、行事週間から始まりました。各学年で修養会しゅうようかいや奉仕活動ほうしかつどう、高2、中3の人たちは沖縄への研修旅行で、普段の学校生活では味わえないような経験や体験をし、多くのことを学んだことと思います。24日、25日には文化祭もあります。

今月は行事続きで忙しいですが、高3年生の多くは入試に向けてこれからが大詰めおおづです。朝晩は涼しくなったとはいえ、日中は暑かったり、体調を崩しがちくすです。体調管理とともに、入試に向けて図書館で新聞記事などのチェックも忘れずにしましょう。時事問題に関する「キーワード集」が図書館にありますし、「朝日けんさくくん」を使って気になるキーワードから関連記事を検索することもできますぜひ。是非、活用してください。

<今月のおススメ本>

近年、熊くまや鹿しか・猿さるが人里おに降りてきて、人に危害きがいを加えるというニュースを聞くようになりました。「山林開発さんりんかいはつにより、野生動物の住む地域うばが奪えさわれたから」「むやみに餌えさを与えるから」とか理由は様々です。一方、日本固有種こごりしゅの動植物が外来生物げいらいせいぶつにより絶滅ぜつめつの危機にあるからと、保護活動を進めたら増えすぎたという事例もあり、野生生物の保護は簡単ではありません。動物保護というと、「命を守る」という「生」のイメージがありますが、現実はそう甘くありません。時には、外来動物やたとえ保護対象の動物であっても人間きがいに危害くじよを加えたものは駆除しなければなりません。(人を襲った熊などは、人肉の味を覚えて再び人間を襲う可能性があるため)

河川や池に飼育できなくなった魚ほりゅうを放流する人がいます。「命を大切にする」視点からは「やさしい」のですが、それにより生態系くを狂つわせることになります。釣り人に人気の「ブラックバス」もその一つです。動物保護団体の中には、動物の命うばを奪えさうことを「悪」とするところもあります。しかし、保護対象動物を優先すれば場合によっては駆除くじよされる動物も出てきます。

「野生動物の保護とは何か？」について考えさせられる1冊です。



『野生生物は「やさしさ」だけで守れるか?』

朝日新聞取材チーム/著

岩波書店/刊